

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育入門ゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	福富 隆志								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。</p> <p>大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体が大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。</p>								
関連する科目	子ども教育ブレゼミを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>基礎的な学修技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む。</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義、読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導を行う。</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報収集の必要性、資料の種類や分類を知り、情報収集の基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった文献リストの作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションに必要な態度・マナー、基本的スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第15回】	学びの総括 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ- (第4版)」 (くろしお出版、¥1800+税) 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 (山形大学出版会、¥800+税) 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」 (北大路書房、¥1900+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育入門ゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	瀬戸口 裕二								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を得ることにあります。</p> <p>大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化します。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。</p>								
関連する科目	子ども教育ブレゼミを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>基礎的な学修技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む。</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義、読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導を行う。</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報収集の必要性、資料の種類や分類を知り、情報収集の基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった文献リストの作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションに必要な態度・マナー、基本的スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第15回】	学びの総括 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ- (第4版)」 (くろしお出版、¥1800+税) 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 (山形大学出版会、¥800+税) 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」 (北大路書房、¥1900+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育入門ゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	山田 裕司								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を得得することにある。</p> <p>大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。</p>								
関連する科目	子ども教育ブレゼミを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>基礎的な学修技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む。</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義、読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導を行う。</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報収集の必要性、資料の種類や分類を知り、情報収集の基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった文献リストの作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションに必要な態度・マナー、基本的スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第15回】	学びの総括 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ- (第4版)」 (くろしお出版、¥1800+税) 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 (山形大学出版会、¥800+税) 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」 (北大路書房、¥1900+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育入門ゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	園田 博一								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。</p> <p>大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。</p>								
関連する科目	子ども教育ブレゼミを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>基礎的な学修技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む。</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義、読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導を行う。</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報収集の必要性、資料の種類や分類を知り、情報収集の基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった文献リストの作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションに必要な態度・マナー、基本的スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第15回】	学びの総括 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ- (第4版)」 (くろしお出版、¥1800+税) 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 (山形大学出版会、¥800+税) 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」 (北大路書房、¥1900+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育入門ゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	本田 和也								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。</p>								
関連する科目	子ども教育ブレゼミを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>基礎的な学修技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む。</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義、読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導を行う。</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報収集の必要性、資料の種類や分類を知り、情報収集の基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった文献リストの作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションに必要な態度・マナー、基本的スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第15回】	学びの総括 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ- (第4版)」 (くろしお出版、¥1800+税) 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 (山形大学出版会、¥800+税) 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」 (北大路書房、¥1900+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育入門ゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	早川 純子								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を得ることにある。</p> <p>大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。</p>								
関連する科目	子ども教育ブレゼミを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>基礎的な学修技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む。</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義、読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導を行う。</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報収集の必要性、資料の種類や分類を知り、情報収集の基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった文献リストの作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第10回】	<p>卒業研究中間発表会への参加</p>								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションに必要な態度・マナー、基本的スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第15回】	学びの総括 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ- (第4版)」 (くろしお出版、¥1800+税) 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 (山形大学出版会、¥800+税) 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」 (北大路書房、¥1900+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育入門ゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	遠藤 晃								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を得得することにある。</p> <p>大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。</p>								
関連する科目	子ども教育ブレゼミを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>基礎的な学修技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む。</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義、読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導を行う。</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報収集の必要性、資料の種類や分類を知り、情報収集の基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった文献リストの作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションに必要な態度・マナー、基本的スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第15回】	学びの総括 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ- (第4版)」 (くろしお出版、¥1800+税) 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 (山形大学出版会、¥800+税) 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」 (北大路書房、¥1900+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育入門ゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	宮内 孝								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を得得することにある。</p> <p>大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。</p>								
関連する科目	子ども教育ブレゼミを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>基礎的な学修技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む。</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義、読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導を行う。</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報収集の必要性、資料の種類や分類を知り、情報収集の基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった文献リストの作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションに必要な態度・マナー、基本的スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第15回】	学びの総括 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ- (第4版)」 (くろしお出版、¥1800+税) 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 (山形大学出版会、¥800+税) 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」 (北大路書房、¥1900+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育入門ゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	藤本 朋美								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を得ることにあります。</p> <p>大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化します。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。</p>								
関連する科目	子ども教育ブレゼミを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>基礎的な学修技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む。</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義、読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導を行う。</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報収集の必要性、資料の種類や分類を知り、情報収集の基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった文献リストの作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションに必要な態度・マナー、基本的スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第15回】	学びの総括 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ- (第4版)」 (くろしお出版、¥1800+税) 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 (山形大学出版会、¥800+税) 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」 (北大路書房、¥1900+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育入門ゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	若宮 邦彦								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を得ることにある。</p> <p>大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。</p>								
関連する科目	子ども教育ブレゼミを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>基礎的な学修技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む。</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義、読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導を行う。</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報収集の必要性、資料の種類や分類を知り、情報収集の基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった文献リストの作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションに必要な態度・マナー、基本的スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第15回】	学びの総括 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ- (第4版)」 (くろしお出版、¥1800+税) 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 (山形大学出版会、¥800+税) 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」 (北大路書房、¥1900+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育入門ゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	野村 宗嗣								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。</p> <p>大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。</p>								
関連する科目	子ども教育ブレゼミを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>基礎的な学修技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む。</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義、読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導を行う。</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報収集の必要性、資料の種類や分類を知り、情報収集の基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった文献リストの作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションに必要な態度・マナー、基本的スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第15回】	学びの総括 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ- (第4版)」 (くろしお出版、¥1800+税) 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 (山形大学出版会、¥800+税) 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」 (北大路書房、¥1900+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育入門ゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	酒井 喜八郎								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。</p>								
関連する科目	子ども教育ブレゼミを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>基礎的な学修技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む。</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義、読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導を行う。</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報収集の必要性、資料の種類や分類を知り、情報収集の基本スキルを理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった文献リストの作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションに必要な態度・マナー、基本的スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。
授業計画 【第15回】	学びの総括 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ- (第4版)」 (くろしお出版、¥1800+税) 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 (山形大学出版会、¥800+税) 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」 (北大路書房、¥1900+税)
備考	